



熱のこもった講演をする溝渕先生

鬼北の見どころを再発見

◎地域活性化講演会

明星ヶ丘いきいき会（大森時政会長）が主催する地域活性化講演会は1月26日、日吉支所2階の小ホールで開催されました。

この日は、NPO高知文化財研究所・代表の溝渕博彦さんを講師に迎え、「歴史遺産を活かした地域の活性化」と題して講演。溝渕先生は「文化財は人々の精神的な糧となる。『広見』『日吉』ならではの歴史の景色や文化を残さないといけない」と話し、自身の経験を交えながら、鬼北町の魅力を熱弁していました。

参加者らは先生の話に何度もうなずき、真剣な表情で聞き入っていました。



来賓の人たちによるテープカット

特産のゆずに地域活性化の願い込め

◎JAえひめ南ゆず搾汁施設落成式

1月23日、JAえひめ南ゆず搾汁施設の落成式が同施設前で行われました。

式には、えひめ南農業協同組合関係者や県・町関係者など多くの人が参列し、本施設の完成を盛大に祝いました。

この施設は、町の特産であるゆずを使った高品質なゆず酢の生産と、近年、付加価値の高まりつつあるゆず皮の食用および製油原料としての利用促進を図ることを目的として建設されました。

今後、この施設の活用により、ゆず加工品の販路拡大と農家所得の向上が図られます。



会場に展示された作品の数々

個性溢れる作品、数多く展示

◎平成24年度鬼北地区巡回美術展

鬼北地区文化協会連絡協議会（芝令香会長）が主催する「平成24年度鬼北地区巡回美術展」が行われ、2月5日から10日まで中央公民館で、2月12日から17日まで日吉住民センターで、それぞれ鬼北町・松野町・三間支部の文化協会員の作品49点が展示されました。

会場には絵画、書道や写真など会員それぞれの個性溢れる作品が部門ごとに展示。期間中、約45人の人たちが会場を訪れ、会員らの思いの込められた作品を一つひとつじっくりと見つめながら、その作品の織りなす世界観に引き込まれていました。



和紙を漉く表情は真剣そのもの

悪戦苦闘しながらも、にっこり笑顔

◎わんぱく学級

2月2日、近永公民館とドッグフードカンパニー主催の「わんぱく学級」が小倉コミュニティセンターで行われ、近永小学校6年生の児童37人が参加しました。

今回のわんぱく学級では、町の伝統文化である鬼北文楽と手すき和紙の泉貨紙づくりを体験。鬼北文楽や泉貨紙の歴史などについて勉強した後、実際に挑戦してみるも、初めて触れる文化に児童たちは思うようにいかない様子。

しかし、悪戦苦闘しながらも懸命に挑戦するその表情には、文化を楽しむ嬉しそうな笑顔が溢れていました。